

※※印：2021年 2月改訂(第15版)
 ※印：2016年10月改訂

日本標準商品分類番号
872349

貯法：●凍結を避けて保存 ●開栓後は凍結を避けて冷所保存
使用期限：外装に表示の使用期限内に使用すること。
注意：「 取扱い上の注意 」の項参照

承認番号	22100AMX00760000
薬価収載	2009年9月
販売開始	1992年7月

消化性潰瘍・胃炎治療剤

タイメック[®] 配合内用液

TAIMEC

水酸化アルミニウムゲル・水酸化マグネシウム配合液

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】
 透析療法を受けている患者〔長期投与によりアルミニウム脳症、アルミニウム骨症、貧血等があらわれることがある〕

【組成・性状】

組成	1mL中： 水酸化アルミニウムゲル ……………560mg (酸化アルミニウムとして22.4mg) 水酸化マグネシウム ……………40mg (添加物) サッカリンナトリウム水和物、D-ソルビトール液、パラオキシ安息香酸プロピル、パラオキシ安息香酸メチル、D-マンニトール、pH調節剤、香料
性状	芳香と甘味を有する白色の粘稠性のある懸濁液
pH	7.3～8.5

【効能・効果】

下記疾患における制酸作用と症状の改善
 胃・十二指腸潰瘍、胃炎、上部消化管機能異常

【用法・用量】

通常成人1日16～48mLを数回に分経口投与する。
 なお、年齢・症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

- 慎重投与**(次の患者には慎重に投与すること)
 - 腎障害のある患者〔高マグネシウム血症、長期投与によりアルミニウム脳症、アルミニウム骨症、貧血等があらわれるおそれがあるので、定期的に血中マグネシウム、アルミニウム、リン、カルシウム、アルカリフォスファターゼ等の測定を行うこと〕
 - 心機能障害のある患者〔マグネシウムは、心機能を抑制する作用がある〕
 - 下痢のある患者〔水酸化マグネシウムの緩下作用により、下痢を促進するおそれがある〕
 - 高マグネシウム血症の患者〔血中マグネシウム濃度を上昇させるおそれがある〕
 - リン酸塩低下のある患者〔アルミニウムは無機リンの吸収を阻害する〕

2. 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

本剤の吸着作用又は消化管内・体液のpH上昇により、併用薬剤の吸収・排泄に影響を与えることがあるので、慎重に投与すること。

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ペニシラミン	ペニシラミンの効果を減弱するおそれがある。	同時投与した場合、ペニシラミンの吸収率が低下するとの報告がある。
ミコフェノール酸 モフェチル	ミコフェノール酸 モフェチルの作用が減弱するおそれがある。	併用により、ミコフェノール酸 モフェチルの吸収が減少したとの報告がある。
アジスロマイシン水和物	アジスロマイシン水和物の最高血中濃度低下の報告がある。	機序不明

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
テトラサイクリン系抗生物質 テトラサイクリン ミノサイクリン 等	これらの併用薬剤の効果を減弱させることがあるので、同時に服用させないなど慎重に投与すること。	キレートを形成し、これらの薬剤の吸収が阻害されると考えられる。
ニューキノロン系抗菌剤 エノキサシン水和物 シプロフロキサシン ノルフロキサシン 等		
ビスホスホン酸塩系骨代謝改善剤 エチドロン酸二ナトリウム		
ジギタリス製剤 ジゴキシン等		消化管内で本剤と吸着することにより、これらの薬剤の吸収が阻害されると考えられる。
甲状腺ホルモン剤 レボチロキシンナトリウム水和物等		
胆汁酸製剤 ウルソデオキシコール酸 ケノデオキシコール酸		
フェキソフェナジン		
鉄剤 硫酸鉄水和物 フマル酸第一鉄 等		本剤による胃内pHの上昇及び難溶性塩形成により、これらの薬剤の吸収が阻害されるとの報告がある。
セフジニル セフポドキシム プロキセチル		機序は不明であるが、これらの薬剤の吸収が阻害されるとの報告がある。
活性型ビタミンD ₃ 製剤 アルファカルシドール カルシトリオール	高マグネシウム血症を起こすことがあるので、慎重に投与すること。	これらの薬剤によりマグネシウムの腸管からの吸収が促進することが考えられる。(特に腎障害のある患者)
クエン酸製剤 クエン酸カリウム クエン酸ナトリウム水和物 等	血中アルミニウム濃度が上昇することがあるので、同時に服用させないなど慎重に投与すること。	キレートを形成し、アルミニウムの吸収が促進されると考えられる。



薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
血清カリウム抑制イオン交換樹脂 ポリスチレンスルホン酸カルシウム ポリスチレンスルホン酸ナトリウム	アルカロースがあらわれることがある。観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。	本剤の金属カチオンとイオン交換樹脂が結合することにより、腸管内に分泌された重炭酸塩が中和されずに再吸収されるためと考えられる。
大量の牛乳カルシウム製剤	milk-alkali syndrome (高カルシウム血症、高窒素血症、アルカロース等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。	機序は不明であるが、血清カルシウムの上昇と本剤による血中pHの上昇が関与すると考えられる。
ドルテグラビルナトリウム ¹⁾	ドルテグラビルの血漿中濃度をCmaxで72%、C24で74%低下させる。ドルテグラビルナトリウムは本剤投与2時間前又は6時間後の投与が推奨される。	錯体を形成することにより、ドルテグラビルの吸収が阻害される。
※※ ダサチニブ	本剤との同時投与は避けること。本剤の投与が必要な場合には、ダサチニブ投与の少なくとも2時間前又は2時間後に投与すること。	ダサチニブの吸収が抑制され、血中濃度が低下する可能性がある。
※※ ガバペンチン	同時に投与することにより、ガバペンチンの最高血漿中濃度(Cmax)が17%及び血漿中濃度-時間曲線下面積(AUC)が20%低下した。本剤の投与後少なくとも2時間以降にガバペンチンを服用することが望ましい。	機序不明
※※ エルトロンボパグ オラミン	同時に服用するとエルトロンボパグ オラミンの吸収が著しく妨げられることがあるので、投与前4時間及び後2時間は本剤の投与を避けること。	錯体を形成する。
※※ ラルテグラビル	ラルテグラビル投与前後6時間以内に本剤を併用投与した場合、ラルテグラビルの血漿中濃度が低下する。	キレート形成によるラルテグラビルの吸収抑制等がおこるおそれがある。
※※ リオシグアト	本剤投与はリオシグアト投与後1時間以上経過してからとすること。	消化管内pHの上昇によりリオシグアトのバイオアベイラビリティが低下する。

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

	頻度不明
過敏症	そう痒、蕁麻疹、血管浮腫
消化器	食欲不振、悪心、胃部不快感、便秘、下痢等
代謝異常 ^{注)}	高マグネシウム血症、低リン酸血症及びそれに伴うグルボ病・骨軟化症・高カルシウム血症
長期投与 ^{注)}	アルミニウム脳症、アルミニウム骨症、貧血

注) 長期又は大量投与により発現することがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には減量又は休薬等の適切な処置を行うこと。

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では、副作用があらわれやすいので注意すること。[生理機能が低下していることが多い]

5. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない(使用経験が少ない)。

6. 過量投与

- (1) **徴候・症状**：通常の患者において予測される症状は下痢、腹痛、嘔吐等であるが、腎障害のある患者では過量投与により、高マグネシウム血症があらわれることがある。
- (2) **処置**：大量の過量服用の場合には、胃洗浄ならびにマグネシウム非含有下剤の投与等の適切な処置を行う。

【薬効薬理】²⁾

タイムック配合内用液は即効型中和能を有する水酸化マグネシウムと持続型中和能を有する水酸化アルミニウムゲルの配合により、即効的でしかも持続性を備えた制酸剤である。

1. 中和能

タイムック配合内用液の0.05N及び0.2N塩酸30mLに対する中和反応を測定した結果、0.05N塩酸にタイムック配合内用液10mL添加した場合の中和到達pHは約6.0、0.2N塩酸の場合の中和到達pHは約6.5であった。

この中和挙動よりタイムック配合内用液は、胃酸の基礎分泌状態においては、比較的弱い塩基として作用し、必要以上に胃内pHを上昇させず、また、胃酸分泌状態においては強塩基として十分な制酸力を示す特性が示唆された。

2. 実験的胃潰瘍に対する治癒促進作用

タイムック配合内用液はWistar系雄性ラットを用いた酢酸誘発胃潰瘍に対し、5.0および10.0mL/kg、1日2回14日間の経口投与により、有意な治癒促進作用を示した。

【有効成分に関する理化学的知見】

●水酸化アルミニウムゲル

一般名：水酸化アルミニウムゲル(Aluminum hydroxide gel)

分子式：Al(OH)₃

分子量：78.00

性状：水酸化アルミニウムゲルは白色粘性の懸濁液で、放置するとき、上層に少量の水を分離するが、振り混ぜれば、懸濁液に戻る。

●水酸化マグネシウム

一般名：水酸化マグネシウム(Magnesium hydroxide)

分子式：Mg(OH)₂

分子量：58.32

性状：水酸化マグネシウムは白色の粉末で、においはない。水又はエタノール(95)にほとんど溶けない。希塩酸に溶ける。

【取扱い上の注意】

1. 本品は懸濁液であり、成分が容器の底に沈殿します。服用の都度、良く振とうして下さい。静置条件によって沈殿高に差が認められる場合がありますが、品質には問題ありません。
2. 安定性試験結果の概要³⁾
加速試験(40℃、相対湿度75%、6ヵ月)の結果、タイムック配合内用液は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。

【包装】

タイムック配合内用液
350mL×10

【主要文献】

- 1) Patel P., et al. : J. Antimicrob. Chemother., 66(7), 1567, 2011
- 2) 武田テバファーマ(株)社内資料(薬効薬理試験)
- 3) 武田テバファーマ(株)社内資料(安定性試験)

※【文献請求先・製品情報お問い合わせ先】

主要文献欄に記載の文献・社内資料は下記にご請求下さい。

武田テバファーマ株式会社 武田テバDIセンター

〒453-0801 名古屋市中村区太閤一丁目24番11号

TEL 0120-923-093

受付時間 9:00~17:30(土日祝日・弊社休業日を除く)

※販売

武田薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町四丁目1番1号

※製造販売元

武田テバファーマ株式会社
名古屋市中村区太閤一丁目24番11号

PQMA9402
02